

小学校で出前授業「無電柱化からみた街づくり」を行いました

- NPO無電柱ネットと連携し、伏見小5年生の出前授業を実施。電力や通信は必要であることを前提としつつ、災害や景観・環境などの課題を「見て・体験」してもらい、電線・電柱方式が当たり前ではないことの「気づき」を目的としました。
- クイズや体験の授業を通し、楽しんでもらいながら子ども達の理解を促進できました。授業前後に、電線電柱について同じ質問をしており、「あったほうが良い(43%→9%)」、「無いほうが良い(24%→89%)」と大きな変化がありました。

対象：札幌市立伏見小学校 5年生(30名@4クラス=120名)

日時：令和4年1月31日(火) 5・6時間目

授業内容：

【座学】街と人にやさしい無電柱化 講師：NPO 井上事務局長 (2クラス×2交代)

【体験1】札幌の無電柱化どこクイズ 講師：大部主任研究員 (1クラス×4交代)

【体験2】プラレールで無電柱化街並み体験 講師：岩田主任研究員 (1クラス×4交代)

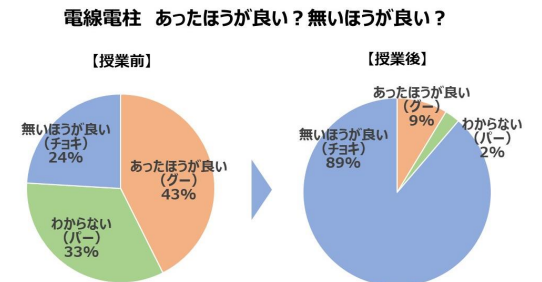
主催：NPO法人電線の無い街づくり支援ネットワーク

協力：国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所 地域景観チーム

伏見小ルールの「ジャンケン」で質問を実施。**授業後には「無いほうが良い」が増加**



▲ジャンケンで3択を解答



データ提供：NPO法人電線の無い街づくり支援ネットワーク



▲街と人にやさしい無電柱化 (NPO井上事務局長)
電線・電柱について、外国との違いや災害時の課題など、クイズも交えて楽しい授業を行いました (写真：NPO提供)



▲札幌の無電柱化どこクイズ (大部主研担当)
「無電柱化マップ」を作成・配布し、防災や観光で重要な場所や道路が先行して実施されていることを学んでもらいました



▲プラレールで無電柱化街並み体験 (岩田主研担当)
「電柱えんぴつ」を児童に建ててもらい、電柱の配置の違いが、景観や防災に大きく影響することを、体験してもらいました

出前授業 実施状況写真



▲NPO伊東氏によるはじめの説明。電力や通信の必要性を前提に、無電柱化授業の概要を説明しました（写真：NPO提供）。



▲NPO井上事務局長の座学。井上さんの話術に引き込まれる子ども達。聞く姿勢もすばらしかった（写真：NPO提供）。



▲無電柱化どこクイズでは「人が集まる駅の周り」や「観光スポット」、また、「車通りの多い道路」などの確かな答えが次々と出ていました。体育館では、北大4年生(萩原研)の丹さん、福田さんが参加してくださり、すばらしいアシストをしてくださいました。



▲えんぴつで作った電柱を、皆に自由に建ててもらいました。どこに建っていたか教え合いながら、たまに倒れたりして、楽しんでいました。



▲プラレールに乗せたカメラで、ミニチュアの街並みをリアルタイムに体験。「裏配線」の景色の違いなど、驚きの声が出ていました。



▲体育館の最後も、じゃんけんぽんでおわりの質問。チョキの「無いほうが良い」が多くを占めました（写真：NPO提供）。